

書棚の宝物

これまで高等学校を中心に7つの職場で多くの人と出会い、時には先輩から、時には同僚から、それぞれの人なりの英語への取り組み方に刺激と感銘を受けてきました。

例えば、教育委員会に勤めていた時には、朝のラッシュを避けて早朝出勤、英語教員の矜持とばかりに、お茶を飲みながらゆったりと自分の研究を続けることを日課にされた先輩の指導主事、ある高等学校では1年間で Paperback を 100 冊読むと年の初めに誓い、見事に達成された先生、また別の高校では夢の中でも英語で喋るほどに英語の好きな先生がおられました。この方は歌詠みをはじめなかなかの粹人で、淀川水系を守る会という NPO 団体の作成された淀川カルタを見事な英語に訳されました。それぞれの方から、記念にと、サイン入りの著書、読后感想文、英訳カルタをプレゼントされたのですが、非才な小生は頂く一方で、それらを書棚の宝物として扱うことしか出来ないのが少々気恥ずかしい思いがあります。

最近、宝物が一つ増えました。最初の赴任校でご一緒させていただいた家庭科を教えておられた方から分厚い郵便物が届きました。開封すると丁寧なごあいさつと書籍、Title は " My memory I " とあります。読み進むと、先生がこれまでに感動された事柄や Challenge されたことについての記述と、それらについての感想などが明るいタッチの英語で記されていることにビックリ。早速にお電話を差し上げて再びビックリです。彼女のお話では、中学校時代は戦時下で英語は敵性語ということではほとんど学ぶことができず悔しい思いをされたこと。そのことが定年退職後も trauma のようにつきまとい、思い切って 70 歳の時から YMCA に通い始めたこと。75 歳の時に Newzealand に数ヶ月間 homestay して得難い体験をされたこと、喜寿を迎えたときにこれまで書き記した日記を紐解き、伝えたいことを英語に直そうと思ひ立ち、親しい方々に送られたこと。そして 80 歳を目途に " II " を完成させるべく日々楽しく机に向かっておられること。

お送り頂いたご本の底に流れる先生の気持ちを感じながら再度読ませていただき、皆さまよくご存じの Samuel Ullman の次の詩を挟み込み書棚に戻しました。

Youth is not a time of life--it is a state of mind; it is a temper of the will, a quality of imagination, a vigor of the emotions, a predominance of courage over timidity, of the appetite for adventure over love ease.

No body grows only by merely living a number of years; peoples grow old only by desweting their ideals. . . .

中垣芳隆